

うぶしなじんじゃ こがらす

宇夫階神社(小鳥さん) 0877-49-0805

【祭神】 おおなむちのみこと おおくにぬしのみこと 大己貴命 (大国主神)

【創建】 平安時代

【由来】

出雲大社に祀られている「いなばの白兔」で名高い大国主神をその本名である大己貴命としてお祀りしています。

神社の創建は古く、紀元前より鵜多郡津之郷に鎮座し、宇夫志奈大神と称え祀られていました。やまとたけるのみこと たけかいおう日本武尊の御子武甕槌王が阿野郡(現 綾歌郡)の国造となり、内海を舟で巡視のおり暴風雨に遭い、驚いた王が宇夫志奈大神に御祈念なされると、忽ち小鳥が飛び来て風波をしのぎつつ泊島(本島)に導き、難を逃れられた、との故事により小鳥大神とも称えられています。

平城天皇の大同元年(807年)朝廷の勅命により社殿を造営し、今の場所に遷座しました。平成19年は、現在地に移って1200年目にあたります。

また平安時代の正史「三代実録」に記載された古社で、古くは宇多津はもとより土器・川津・飯野・坂元と相当広範囲に亘るうぶしなのみ産土神であったと伝えられ、明治27年には県社に昇格した県内有数の神社です。

【見どころ】

社殿は、昭和48年火災により焼失し再建されましたが、特に**本殿**は、伊勢神宮の外宮第一別宮である多賀宮御正殿を昭和51年に拝戴し、復元造営したもので、国の登録有形文化財に登録されています。

社殿後ろの**巨石磐境(いわさか)**は、神社創建以前の古代祭祀の遺構といわれ町指定の天然記念物になっています。

末社の金刀比羅神社に懸かる絵馬額の「**網の浦眺望青野山真景図**」は、安政2年(1855年)に描かれた町並みですが、江戸時代から今も変わらぬ宇多津の街の姿に歴史的重みを知る貴重な資料です。

香川県内においても歴史ある宇多津町の宇夫階神社は、年の始めの歳旦祭・年の終わりの除夜祭に至るまで、一年を通して、様々な祭が行われています。特に、10月に行われる秋の例大祭には町内外より多くの人が訪れ賑わいます。



本殿



巨石磐境



網の浦眺望青野山真景図



秋の例大祭



【主な年中行事】

金毘羅市	5月	春市
六月朔日祭(ろくがつひとよ)	7月	旧暦6月1日 一夜酒頒与
早祓(さばらい)	8月	旧暦7月1日 夏越茅輪くぐり
忠魂社慰霊祭	8月	(8月15日)戦没者慰霊祭
十七夜(じゅひちや)	8月	旧暦7月17日 浜八番丁にある末社神石神社のお祭り
初白祭(はつもうし)	10月	10月10日 特殊神事(おとぐい神事)
例大祭氏子祭(秋の例大祭)	10月	(10月第4土・日曜日) 塩竈神社大祭・宇夫階神社大祭
七五三祭	11月	三歳の男女児、五歳の男児、七歳の女児の成長を願います。
冬至星祭	12月	星御守頒与

